



写真提供：岐阜新聞社

帝京高校を破り、準決勝進出を決めた県岐阜

# 県岐阜野球部45年ぶりの準決勝進出

第91回全国高校野球選手権大会で、県立岐阜商業高校は第46回大会以来45年ぶりの準決勝進出を果たしました。

県岐阜野球部出身で現在、パナソニック株式会社常務役員の鍛冶舎巧氏に、ご自身の野球人生と今大会の後輩達の戦い振りについてお話しを伺いました。

## ● 鍛冶舎氏の県岐阜野球部時代

鍛冶舎氏の野球との出会いは小学生時代でした。中地球場の巨人戦で、長嶋茂雄選手のプレーを間近に観たことがきっかけでした。中学校に進み野球部に入った鍛冶舎氏はすぐに頭角を現し、ピッチャーで4番、そして、3年生の時にはキャプテンも務めています。県岐阜でもやはり野球部に入り、1年生の時からベンチに入り、3年生の春の選抜大会で甲子園出場を果たし、ピッチャーとしてベスト8まで進みました。

鍛冶舎氏は当時の県岐阜野球部の練習について、「とにかく、厳しくて辛かった」と述懐しています。定時制がありグラウンドに照明があったため日が暮れても練習、練習でした。「極限まで自分を試していった、どこまで我慢できるかという練習でした。しかし、そういうことを経験している人間は強いですね」と確信を持って語ります。

野球部には合計100人ほどの入部者が集まったものの、厳しい練習についていけず、3年生になった時には16人になっていました。今は、0.1トンほどの体重の鍛冶舎氏も、当時は65kgのスマートボーイでした。

## ● 今大会を振り返って

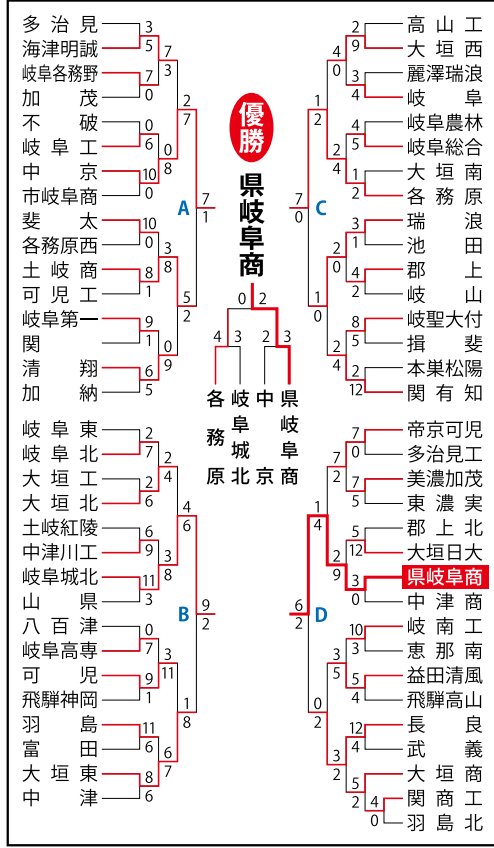
鍛冶舎氏は、今年の全国高校野球大会での県岐阜の後輩達の活躍を振り返って、「今大会では一回戦の山梨学院大付属高校との戦いがすべてだった」と語り、勝因として三点を挙げました。一点目は「藤田監督という将を得たこと」を挙げました。藤田監督は選手の近くで練習を見て、直接選手と言葉を交わし、一人ひとりの選手の個性や特性を的確に把握し、試合においては臨機応変に大胆に選手を起用していき見事にその作戦が的中しました。二点目は試合で「流れをつくる」ことの重要性を挙げました。初戦の山梨学院大付属高校との試合で初回に7点を奪ったダブルスチール、ツーランスクイズ、ヒットディング、ホームランと硬軟取り混ぜた攻撃は見事でした。三点目は「選手を乗せることができた」と述べました。強気、強気の作戦と、盗塁なども「行けたら、行け」というサインで、選手に主体性を持たせ、選手を乗せることに成功しました。さらに「守備が素晴らしかった。それに攻撃の積極性加わり、うまくかみ合った良いチームとの印象を受けた」と話しました。

さらなる高みを目指すために

今大会は、県岐阜野球部が2回戦で山梨学院大付属、3回戦でPL学園、準々決勝で帝京高校と



写真提供：岐阜新聞社



岐阜県大会の結果

資料提供：岐阜新聞社

強豪名門チームを連破し、見事準決勝進出を果たしました。残念ながら、準決勝ではあと一本が出ず日本文理高校に2対1で敗れましたが、その見事な戦いぶりに感動された方も多かったのではないのでしょうか。

鍛冶舎氏は今後、県岐阜が甲子園で勝ち進み優勝を果たすために、次の二点が必要と話しました。一つは「甲子園で勝ち抜いていくためには一人のピッチャーでは苦しいので、実力のあるピッチャーを複数育てる必要がある」という点です。今大会でも山田投手は一人で490球を投げ抜き、相場の疲労が溜まっていたと思われる。また、ピッチャーを育てるには、緊張感のある公式戦で我慢して起用することが重要と指摘しています。二点目は「低めのボールの見極めをしっかり行う」ということで、鍛冶舎氏は「低めは三振でもいいというくらいの徹底が必要」と述べ、準決勝の日本文理との試合で相手投手がチェンジアップとスライダーを低めに集め、11三振を奪った例を挙げました。

また、日頃の練習についても言及し、「無茶はダメだが、無理はしななければならない」と言い、今の選手は自分の中でシミュレーションし、自分には無理と決めてしまっていると分析しています。そして、そういう選手達を如何に動機づけし、無理をさせるかが重要だと述べました。常に目的意識を持ち、課題をつくって無理をすることにより実力は養われていきます。壁をつくっているのは自分。乗り越えるのも自分です。

最後に鍛冶舎氏は、「目の前の一球に悔いを残すな」と述べ、「飛んできた一球、次に投げる一球、打った一球など、迷いながらプレーをしてはいけない。そして、自分に負けるな、極限まで追い詰め、ブレークスルーしようと思ったら勇気がいるが、勇気をもつのも自分」と話しました。

鍛冶舎氏は、「これらのことを真剣に取り組んでいったとき、県岐阜の戦後初の優勝が見えてくるのではないかとインタビューを結びました。



かじしゃ たくみ 鍛冶舎 巧氏 (パナソニック株式会社常務役員) 県立岐阜商業高校、早稲田大学、松下電器産業株式会社(現パナソニック株式会社)を通じ野球に打ち込み、県岐阜時代には甲子園出場。選抜甲子園野球通算100号ホームランと、早稲田大学時代には東京六大学野球連盟通算800号ホームランを記録している。揖斐郡池田町出身。58歳。